

みなさまの保険情報

INSURANCE INFORMATION

TOPIC

銀行窓販の弊害防止措置の見直しが図られました!

多様になった保険販売チャネル

従来、損害保険に加入する場合は、専門のプロ代理店に依頼したり、新車購入や車検の際にディーラーなどで加入することが一般的でした。それが、近年は多様な方法で加入できるようになっています。

インターネットを利用した通信販売や、ショッピングモールや街角で見かける来店型ショップで保険に加入することも知られるようになりました。

また、銀行の窓口でも平成13年4月から住宅関連の長期火災保険や海外旅行傷害保険などの募集・販売を開始しています。取扱い保険商品は段階的に拡大し、平成19年12月からは全ての商品について販売できるようになりました。

住宅ローンを借りる際に火災保険や地震保険に加入したり、海外旅行に行くための通貨交換やトラベラーズチェックの手続きの際に海外旅行傷害保険に加入できることは、たいへん便利なことです。

例えば、銀行の窓口で販売されているので、お客様が保険を預金と誤認してしまうことがあるかもしれません。そのようなことを防止するために、銀行はしっかり説明することは当然ですが、その説明内容について、お客様が理解したかどうか書面を使って確認しなければなりません。

また、もうひとつ例をあげますと、住宅ローン関連での保険加入に際しては、他の銀行取引等に影響がないこと、つまり、保険への加入がローン実行の条件ではないことについて、お客様へ書面を使って説明しなければなりません。

金融商品を扱ったり、お金を貸したりする立場である銀行であるからこそ、消費者を守る仕組みが作られています。

銀行でもプロの代理店でも、保険に加入する際には説明を受けて、分からないことや疑問に思ったことは、しっかり確認することが肝要です。

銀行には誤認防止や融資先募集規制が!

銀行の窓口で保険に加入することは便利ですが、反面、注意すべきこともあり、弊害防止措置が取られています。

平成23年7月にその見直しが行われ、平成24年4月からは、保険に加入する人の保護や利便性を高める一方で、弊害防止措置の実効性を確保するため、いくつかの対応が取られます。



シニアドライバーの事故が増加しています!

3分の1以上が安全不確認が原因! 複数の危険ポイントに注意!!

加齢とともに視力や聴力、判断能力の身体機能が低下

少子高齢化が進む日本では、60歳以上のシニアドライバーは、年々増加しています。近い将来、約3人に1人がシニアドライバーとなるクルマ社会が到来すると予想されています。

シニアドライバーは、加齢とともに、視力や聴力、判断能力といった心身機能が低下する場合があります。そのような中、シニアドライバーの交通事故の件数も近年増加してきています。

安全運転力をチェックしてみよう

損保業界では日本損害保険協会が、シニアドライバーの交通安全啓発の取組みとして、チラシを作成しています。

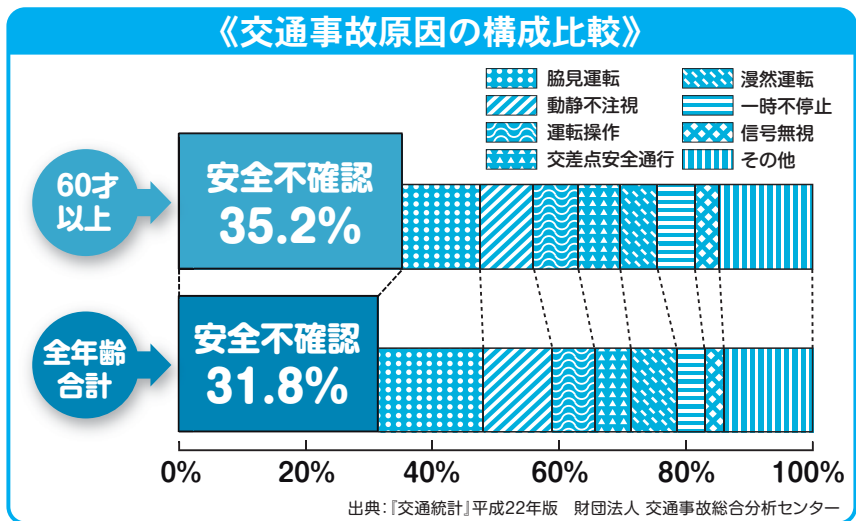
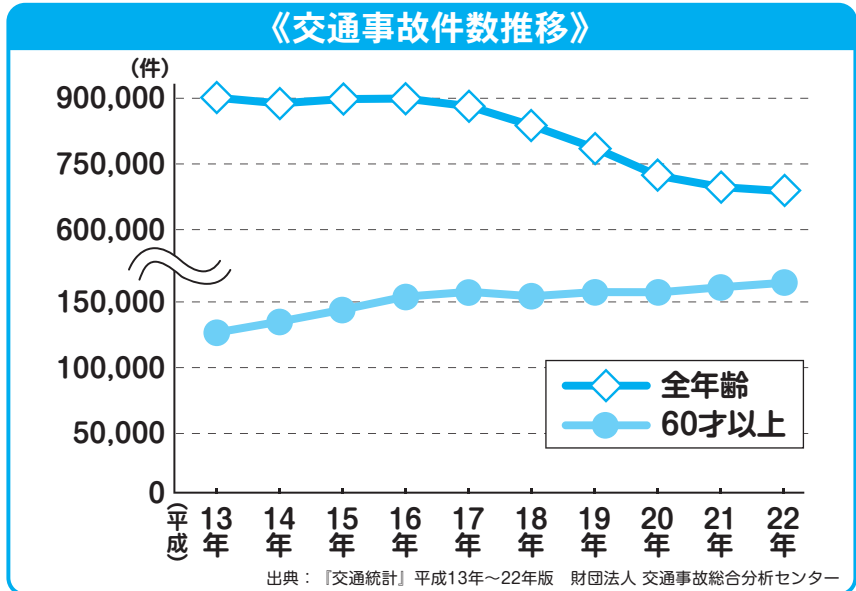
それによりますとシニアドライバーが起こす交通事故は、3分の1以上が安全不確認によるもので、特に一度に複数の危険ポイントを確認しなければならない場面で、事故は起きやすくなっているようです。

具体的には、信号のない交差点での出会い頭事故、車線変更時の前方走行車との接触事故、右折時の対向車との接触事故、構内でのバック時の物損事故などが多くなっています。

事故防止のためには、自分の運転を過信せず客観的に評価し、安全運転の基本動作が常に出来ているか意識することが重要です。

慣れた道であっても、十分な減速や目視の確認を行い、死角に人や物があつた場合でも、対応できるよう、必要な注意・確認を実施しましょう。

また、周囲の確認よりも運転操作が先行してしまうと、急な飛び出しや、他の車の予想外な動きに対



以下の点について、安全運転力をチェックしてみましょう。
チェック項目に1つでもチェックがある場合は注意が必要です。

【チェック項目】

- 通り慣れた交差点で、急に飛び出してきた自転車や歩行者とぶつかりそうになったことがある。
- 車線変更の際、安全確認を行ったつもりが、気がつけば前方に車が迫っていたことがある。
- 右折時、対向車の陰から二輪車が直進してきて、接触しそうになったことがある。
- 駐車の際、身についた車両感覚でバックすることが多い。

応ができず、事故につながる恐れがある。医療機関が独自に通院バスを運行したりしています。これらな。昨今、行政による福祉バのサービスを上手に利用することス等の交通手段が整備されたり、も、事故を減らすことにつながりスーパーでも宅配を行う様になっます。



【平成22年中の交通事故発生状況】 年間72万5,773件に及んでおり、そのうち死亡事故は4,726件、重軽傷事故件数は72万1,047件です。実に1日当たり2千件近くの事故が発生していることとなります。

～人的リスクとして見過ごせない「病気」～

NPO法人リスク・エイド 事務局長 伊集院 剛史

企業経営には、様々なリスクが付きまといまいます。これらのリスクは、その特徴ごとに分類をした上で管理するほうが効率がよいため、一定の基準を設けて分類することがよく行われています。分類基準はいくつかありますが、私の知る限り、最もよく用いられるのが、リスクを「ヒト」「モノ」「収益」「賠償」の4つに分ける方法です。

リスクは大きく「ヒト」「モノ」「収益」「賠償」に分けられる

1. ヒト（人的）リスク

人的リスクは、企経営者・役員・従業員・パート・アルバイト・下請負人・派遣社員・受入出向者といった、企業活動を支えている人々が事故や災害・病気などで亡くなったり、休業を余儀なくされるリスクを指します。

2. モノ（財物）リスク

財物リスクは、建物・設備・什器備品・商品などの企業資産が焼失・損壊したり、失われたりするリスクを指します。

また、これらの「モノ」以外にも、現金や有価証券、売掛金などの「カネ」、顧客データや製造機密といった「情報」も、企業にとって重要な資産であるため、財物リスクに含めて管理します。

3. 収益（収益減少・途絶）リスク

収益減少・途絶リスクは、事故や災害などにより、自社・仕入先・取引先等が事業停止に陥った結果、自社の収益が減少・途絶するリスクを指します。たとえ自社に被害がなくても、原材料や部品・商品等が入ってこなければ、自社の事業活動は止まってしまいます。

また、納品先の事業活動が止まったために、自社の商品やサービスを提供する場がなくなった場合も同様に、自社の事業活動はそれ

らの影響を受けてしまいます。

4. 賠償リスク

賠償リスクは、企業活動において第三者に損害を与え、賠償請求を受けるリスクを指します。顧客や取引先、近隣住民等の方々はもちろんのこと、自社の役員個人や従業員・株主といった企業サイド（構成員や出資者）といえる人々も、会社に対して賠償請求を行うことがあるため、賠償リスクの観点からは「第三者」ということになります。

以上が企業の抱える「4つのリスク」の概要です。

近年重要視されている「メンタルヘルス」「集団感染」のリスク

続いて、最初にご紹介した「人的リスク」の詳細について見ていきましょう。

1. 人的リスクの具体例

事故や災害によって従業員が死傷するケースが最もイメージしやすいと思いますが、見過ごせないのが「病気」です。特に近年重要視されているのが「メンタルヘルス」と「集団感染」のリスクです。

メンタルヘルスに不調をきたす従業員が企業内で増加した場合、本人の就業不能による生産性の低下や、管理部門の対応コスト増加など、そのダメージは決して小さくありません。

集団感染リスクに関しては、2009年に世界的大流行となった新型インフルエンザの猛威を思い出していただければ、イメージは容易かと思えます。対策が不十分なまま職場での集団感染が発生すれば、事業自体が止まってしまう可能性もあります。

メンタルヘルスには定期的なヒアリングを

2. 人的リスクへの対応

メンタルヘルスについては、経営者や上司が従業員の状態に目を配ること、定期的にヒアリングを行い、変化を早期に察知することが重要です。

また、会社に知られることなく心理カウンセリングを受けられる環境を従業員に提供することも効果が期待できます。傷害保険の付帯サービスとしてカウンセリングサービスを提供している保険会社もありますので、それらを利用するのもひとつでしょう。

集団感染リスクについては、まずは従業員一人ひとりが感染をしないよう、うがい・手洗い・マスク着用を徹底することです。そして万一感染した場合は即座に出勤を停止させ、完治しても一定期間出勤させない体制を作る必要があります。

それでも業務が継続できるようにするためには、仕事のローテーションを行い、「あの人でないかわからない」という業務を極力少なくする、自宅が近い従業員同士を同じ部署に配置しない、などの工夫が必要です。



「メンタルヘルス」とは？ 心の健康。複雑化する社会環境や厳しさを増す労働環境によるストレスから引き起こされる、うつ病や適応障害などの精神疾患の増加が大きな社会問題になっている。

リズムある日常生活と体を温める食品摂取で予防!

女性に多くみられる冷え性。血液の循環が悪い状態で手や足先など体の末端部分の血行が悪くなるため、驚くほど冷たく、冬場は特につらくなる季節でもあります。リズムある日常生活と体を温める食品摂取で予防しましょう。

体温調整の血液循環がうまくいかない

人間の体は、寒いと感じると体の表面の毛細血管を収縮させて体温が外へ逃げないようにし、ある程度の時間で今度は血液を送り込み、体の表面の温度が下がりにすぎないように調節します。

冷え性の場合、このような調節がうまくいかず、いつまでも血管が収縮しているために手足が冷たくなってしまいます。手足の冷えによる手や足先のしびれ感、腹痛、身体がだるい、生理痛がひどい、トイレの回数が増えるなどの症状があります。

自律神経とのかかわりが大きな原因に

大きな原因のひとつに「自律神経」とのかかわりがあります。血管の収縮と拡張を調節している神経を「自律神経」といいますが、この自律神経の働きが何らかの原因で低下し、うまく働かず、血管の収縮を上手にコントロールできなくなるため、手足など体の末端に冷えを強く感じるようになります。

自分でケアする冷え性ケアのポイント

●日常生活のポイント

多少の変化があるものの生活のリズムがある程度整っていたら、私たちの体は、そのリズムに則ってホルモンの生成など事前準備を繰り返し、体調を整えようと努力します。

●食事ケアのポイント

◆食事はバランスよく摂りましょう

食事は、体を元気にする源。食品には、それぞれ違う重要な役割があります。特定のものだけを活用して元気に生きることは不可能です。それぞれの食品や栄養素をうまく取り入れることが日頃から元気に過ごす秘訣です。

◆体を温める、または血流をよくする食品を活用しましょう

体を温める食品として、しょうが、唐辛子、にんにく、ねぎなどが挙げられます。これらを食事のなかに取り入れて、食事を楽しみながら予防をしましょう。

●運動ケアのポイント

体を動かすことで血液の循環がよくなり、体全体を温めていきます。活動することによってエネルギーを使い、代謝がよくなります。日々、繰り返すことで筋肉がつき、体力向上、ストレスの解消にもつながります。寒いからとたくさん着込んで動かなくなるよりも積極的に動いて冷え性を改善しましょう。

具たくさん生姜スープ

材料：2人分

中華スープ.....500 cc
鶏ささみ.....2本
酒.....小さじ1
人参.....3センチ程度 2本
インゲン.....2本
干しいたけ.....2枚
きくらげ.....2枚
エビ.....2尾
酒.....小さじ1
土生姜.....1かけ
卵.....1個
塩・こしょう.....少々
薄口しょうゆ.....小さじ1
水溶性片栗粉.....大さじ2

作り方

- ①きくらげ、干しいたけはそれぞれ軽く洗って汚れをとり、水につけてもどして、せん切りにしておく。
- ②ささみはお酒につけ、お皿に入れてラップをし、電子レンジで1分30秒ほど温める。粗熱



体の芯から温めよう

- がとれたら細かくさいておく。
- ③エビは殻と背わたを取り、お酒につけて臭みをとり、1~1.5センチ幅に切っておく。
 - ④インゲンはさつとゆでて斜めの細切りにしておく。人参は生のまま千切りにしておく。
 - ⑤鍋に中華スープを温め、インゲンと人参以外を入れてひと煮立ちさせ、その後インゲンと人参を加えて、土生姜の絞り汁を加え、塩こしょう、薄口しょうゆで味を調える。
 - ⑥水溶性片栗粉を入れとろみをつける。
 - ⑦溶き卵をゆっくり回し入れ、卵がふわっと浮いてくるのを待って火を止め、軽くお箸で混ぜ、器に盛り付ける。



損害保険のプロフェッショナル「日本代協認定保険代理士」

みなさまに信頼されるプロ代理店として活躍しています。

平成24年1月1日をもって「日本代協認定保険代理士」が全国で9,429名となりました。



日本代協はチャレンジ25キャンペーンに参加しています。



— 契約者・消費者のために! —
社団法人 日本損害保険代理業協会
ホームページアドレス <http://www.nihondaikyoo.or.jp/>